防災ハンドブック全面改訂しました

市内全域が入った津波ハザードマップ、洪水・土砂災害ハザードマップ（A1判両面刷り）別冊付属

「日本海溝・千島海溝」沿いの巨大地震による津波災害警戒区域の指定や被害想定公表などをふまえて見直しを行いました。

なお、令和2年度に配布しました防災ハンドブックは掲載情報が変更となっておりますので、このたび配布する「令和5(2023)年3月作成保存版」への更新をお願いします。

問 市役所総務課交通防災係[内線212~215]

市では自助、共助の推進による地域防災力の充実・強化を目指して、日頃の備えや、発災時の適切な行動等について掲載した「北斗市防災ハンドブック」を全面改訂しました。地震や津波、集中豪雨による洪水や土砂災害。いつ、どこで起こるかわからない自然災害に対して、日頃から備えておく必要があります。

このハンドブックで確認できること

自助・共助に関する部分

- ▽災害・避難情報の伝達方法
- ▽情報の入手先
- ▽地震・津波・洪水・土砂災害での行動と備えの注意点

災害時に避難を判断する際に必要な情報

- ▽津波浸水予測区域
- ▽洪水浸水想定区域
- ▽土砂災害警戒区域
- ▽災害別の避難場所等の一覧表

この「北斗市防災ハンドブック」で地域の危険を知り、正しい避難行動がとれるように日頃から家庭や職場で災害に対する安全対策を話し合うとともに、地域での自主防災体制の確立や強化に活用ください。

自治会・町内会から防災研修会等、要請をいただければ、市の防災担当職員が伺いますので、町内会活動活性化の自主防災事業としてお役立てください。

北斗市 防災ハンドブック 身を守るために確かな行動を!! 令和5(2023)年3月作成 保存版

北斗市防災マップ Web版 北斗市防災 WebGIS

安否情報を家族や知人に知らせる方法

災害への備え 指定緊急避難場所の確認

事前にハザードマップで自分の家と危険区域を確認し、自分の家から避難場所までのルートはどれくらいの時間を要するのか、ルート上に危険な箇所はないかを確認しながら、複数の避難ルールを決め、いざという時の自分のとるべき行動を決めておくことが大事です。

マイ・タイムライン 記入表	避難する場所:
<p>3日前 災害への心構えを高める</p> <p>1 準備段階</p>	<p>私の備えと行動</p> <p>P14</p>
<p>2日前 避難の判断</p> <p>2 大規模な災害発生時</p>	<p>自分の避難行動を確認!</p>
<p>1日前 避難の危険</p> <p>3 避難場所を確認</p>	<p>危険な場所から「高齢者等は避難」!</p>
<p>0時間 避難の発生</p> <p>4 避難行動</p>	<p>危険な場所から「全員避難」!</p>
<p>0時間 避難の発生</p> <p>5 緊急安全確保</p>	<p>命の危険! 「速ちに安全確保」!!</p>

地震・津波の際は

大津波警報 (特別警報)

沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台などの安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。

津波警報

ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!

※津波警報の時には、津波ハザードマップの津波浸水予測範囲・最大浸水深(m) (基準水位)が4.0m以上~8.2m未満に着色されている区域の外へ避難してください。

洪水・土砂災害の際は

予期せず発生する災害とは対応が異なり、災害が発生する前に避難が可能です。

防災ハンドブックを参考にしながら、警戒レベルに対応した自分や家族のマイ・タイムラインを作成し、効果的な気象情報の収集と先を見越した早目の行動、適切な避難方法による行動がとれるよう備えてください。